

開催報告

平成29年度「滋賀県防災キャンプフォーラム」

防災教育や青少年の体験活動に関わる機関・団体指導者・学校関係者が一堂に会し、事例発表や講演をとおして、本事業の普及・啓発を行うとともに、関係者の学びを深めるために、「防災キャンプフォーラム」を開催しました。

【日時】

平成29年10月25日（水）13：30～16：00

【会場】

滋賀県危機管理センター

【対象】

- ・行政関係者（市町職員、公民館等職員、地域防災所管）
- ・社会福祉協議会、ボランティアセンター職員等
- ・教員、学校関係者
- ・しがこども体験学校登録団体関係者、通学合宿等子どもの宿泊体験活動関係者
- ・一般県民（自主防災会、学校支援メニュー登録団体等）



【参加者】

50名

【開催日程・内容】

日 程	内 容
13：10	受付
13：30	開会行事 開会あいさつ、日程説明
13：40	事例発表 「東近江市防災キャンプ事業」の取組について 発表者 東近江市（蒲生地区）防災キャンプ実行委員 蒲生地区地域教育協議会 会長 綾 康典 氏
14：00	講評 同志社大学 社会学部 教授 立木 茂雄 氏
14：10	休憩
14：20	講演 「防災リテラシーを高める防災キャンプとは」 講師 同志社大学 社会学部 教授 立木 茂雄 氏
16：00	閉会 危機管理センター施設見学（希望者）

【事例発表】「東近江市防災キャンプ事業」

東近江市蒲生コミュニティセンターを避難所と想定して実施された、防災キャンプについての概要を御説明いただきました。

キャンプでは、防災講演や自衛隊による防災講話に加え、防災体験（煙体験、消火器体験、車いす体験）や炊き出し体験、避難所設営体験も実施されました。また、計画時に苦労した点や関係団体と連携できた点など、成果や課題についてもお話ししていただきました。



【講評】同志社大学社会学部教授 立木茂雄氏

- ・災害時に支援される側ではなく、支援する側になろうと参加生徒の気持ちが変わったことから、防災キャンプの成果がわかる。
- ・実際に、災害時に支援をしていただく自衛隊と協力して防災キャンプを実施できたのが良かった。

【講演】「防災リテラシーを高める防災キャンプとは」

同志社大学社会学部 教授 立木茂雄 氏

防災キャンプの取組をどう考え、どう取り組んでいくべきかについてお話ししていただきました。（以下要点整理）



1、滋賀県は「土手の花見の防災」を目指している

- ・土手で花見をすることで、知らぬままに堤を踏み固め、強くしている。このように、滋賀県では、かまどベンチの設置や通学合宿のように、みんなが楽しく生活する中で取り組める防災を目指している。

2、平成 29 年度の防災キャンプの活動のふりかえり

- ・東近江市の防災キャンプでは、災害を「わがこと」と捉える取組ができたことや地域連携ができたことなど成果があった。高齢者や目の不自由な方が利用しやすいよう、避難所に優先エリアを設けることやペットの居場所を作ることについては、今後考えていく必要がある。

3、平成 28・29 年度の防災キャンプがおかれた客観的情勢：人は何故逃げないのか？

- ・人は損失に対してはリスク追求的になる傾向がある。そのため、避難準備情報が発令されても、被害が大きくなるまで避難しないというような行動をとる。

4、防災リテラシーはリスク追求への偏りを正す

- ・災害に対して、脅威を理解し、必要な備えなどをして、いざというときに適切な行動をとっていける力＝「防災リテラシー」を身につけることで、災害時に正しい意思決定ができる。

5、平成 28・29 年度の防災キャンプを防災リテラシーの視点からふりかえる

- ・防災キャンプをすることで、防災リテラシーを高めることができる。通学合宿のような、例年の取組に、防災の要素を取り入れることで滋賀県の目指す「土手の花見の防災」を進めていくことができる。

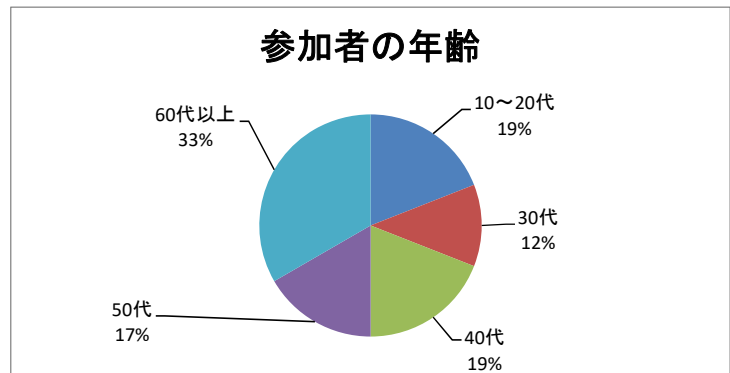
平成29年度「滋賀県防災キャンプフォーラム」アンケート結果

※回収率 84%
(42名/50名)

Q1

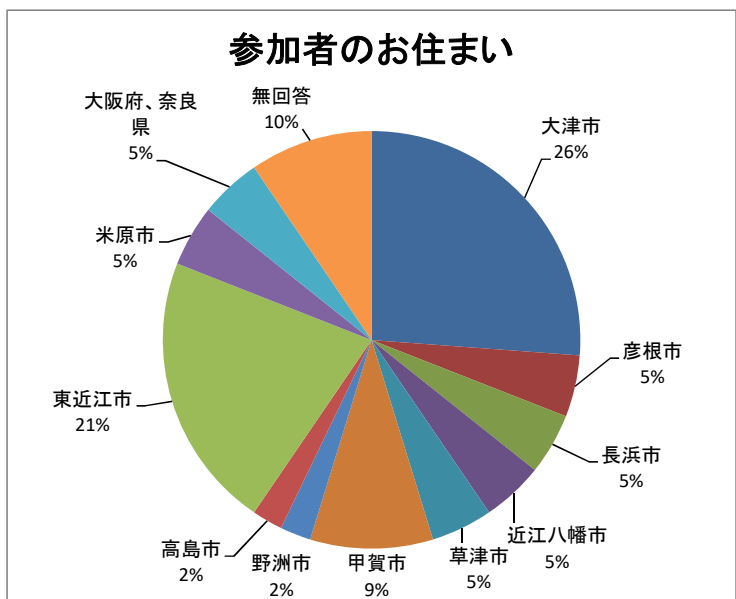
・参加者の年齢

	年齢	人数	割合
1	10～20代	8	19.0%
2	30代	5	11.9%
3	40代	8	19.0%
4	50代	7	16.7%
5	60代以上	14	33.3%
合計		42	100%



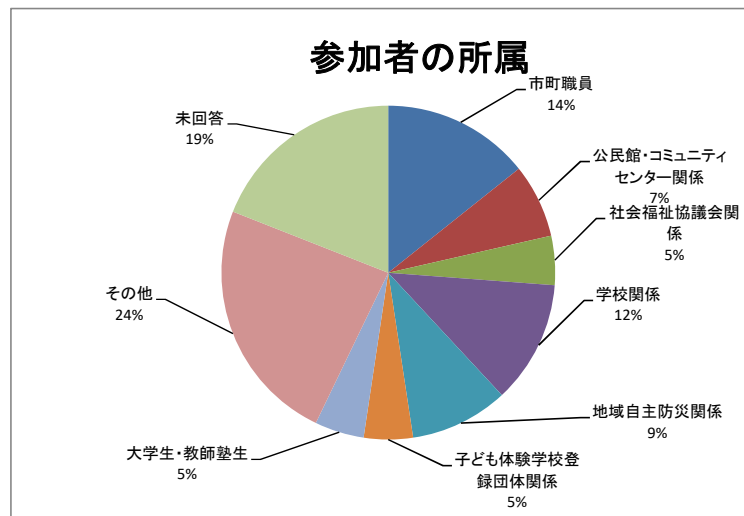
・参加者のお住まい

	市町名	人数	割合
県内	大津市	11	26.2%
	彦根市	2	4.8%
	長浜市	2	4.8%
	近江八幡市	2	4.8%
	草津市	2	4.8%
	甲賀市	4	9.5%
	野洲市	1	2.4%
	高島市	1	2.4%
	東近江市	9	21.4%
	米原市	2	4.8%
県外	大阪府、奈良県	2	4.8%
	無回答	4	9.5%
合計		42	100%



・参加者の所属

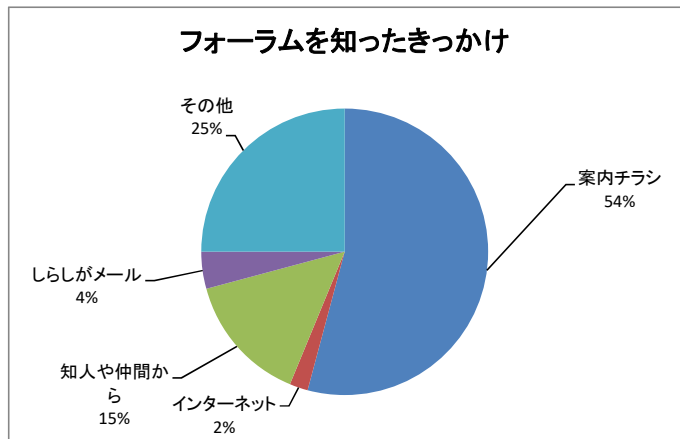
	所属	人数	割合
1	市町職員	6	14.3%
2	公民館・コミュニティセンター関係	3	7.1%
3	社会福祉協議会関係	2	4.8%
4	学校関係	5	11.9%
5	地域自主防災関係	4	9.5%
6	子ども体験学校登録団体関係	2	4.8%
7	大学生・教師塾生	2	4.8%
8	その他	10	23.8%
9	未回答	8	19.0%
合計		42	100%



Q2 このフォーラムを何で知りましたか
(複数回答可)

	方法	人数	割合
1	案内チラシ	26	54.2%
2	インターネット	1	2.1%
3	知人や仲間から	7	14.6%
4	しらがメール	2	4.2%
※5	その他	12	25.0%
	合計	48	100%

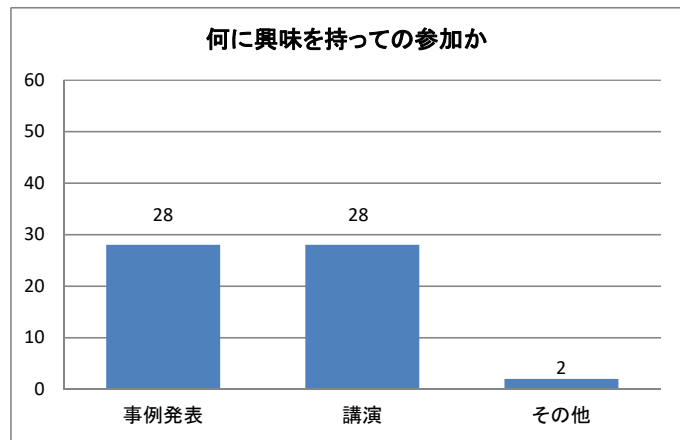
- ※4 その他
 ・発表団体よりの連絡
 ・担当者よりの連絡
 ・市民センターの紹介
 ・毎年参加している



Q3 何に興味をもってフォーラムに参加しましたか？
(複数回答可)

	内容	人数	割合
1	事例発表	28	46.7%
2	講演	28	46.7%
※3	その他	2	3.3%
4	無回答	2	3.3%
	合計	60	100%

- ※3 その他
 ・防災キャンプというキーワード
 ・当財団の事業に生かせるかと思った。
 ・防災教育



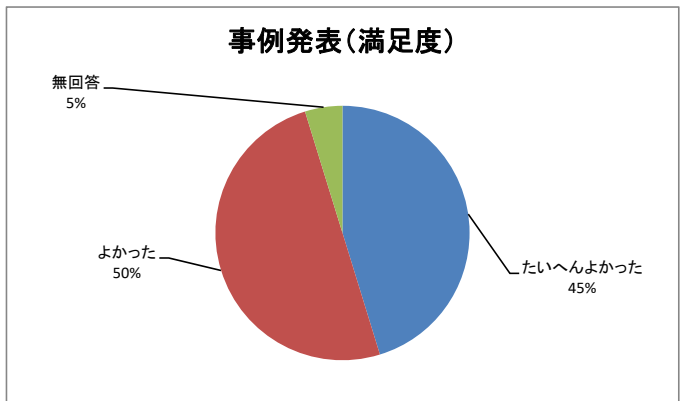
等

Q4 それぞれの内容について、感想を選んでください。

(1) 事例発表

	満足度	人数	割合
1	たいへんよかった	19	45.2%
2	よかった	21	50.0%
3	無回答	2	4.8%
	合計	42	100%

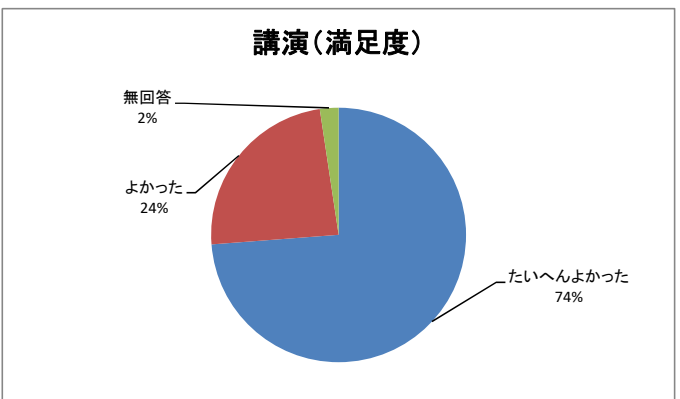
※理由については、次ページに記載



(2) 講演

	満足度	人数	割合
1	たいへんよかった	31	73.8%
2	よかった	10	23.8%
3	無回答	1	2.4%
	合計	42	100%

※理由については、次ページに記載



Q4 理由(一部抜粋)

1 たいへんよかった 2 よかった 3 あまりよくなかった 4 よくなかった

満足度	(1)事例発表
1	学校関係者として、自校でも防災キャンプ等、実施できるよう働きかけたい。
1	たくさんの団体等と連携し、地域ぐるみで取り組みをされていることを知ることができた。
1	準備間における苦労話や実行にあたり工夫された事項等、表面にでてこない内容を知ることができ、たいへん参考になった。
2	防災キャンプを通じて、防災を自分のこととして捉えられている取組であったと感じた。
2	具体的な進め方(実行委員を集める段階から)を聞くことができたのでよかった。うちの市でも、やってみたいと思う。
2	地域で熱心に取り組まれている様子がよくわかった。 中高生は受け身としてではなく、リーダーとして育つように今後も取り組んで欲しいと思った。

満足度	(2)講演
1	学区の総合防災訓練のヒント、小学校の防災教育のヒントが得られた。
1	防災リテラシーを高めることが大切だということが、様々な調査結果からよく分かった。 危険だと分かっても逃げない人を減らすことが、重要であると感じた。
1	「土手の花見の防災」、防災キャンプの位置付け、通学合宿との関係等、非常に興味深いお話でした。
1	色々なデータを用いて科学的な側面から、防災に係る講演をしていただき、たいへん理解が容易でした。
1	「土手の花見の防災」という言葉が印象的でした。防災リテラシーの理論を初めて知った。
2	データ(防災キャンプ実施団体)が増加すればするほど、防災キャンプの精確な効果分析が可能になるということで、前年よりも防災キャンプの効果を理解できる講演でした。

Q5 本フォーラムに御参加いただいて、参考になったことや今後取り組んでみたい内容がありましたら、お書きください。(一部抜粋)

防災キャンプができたらと思った。まずは教職員への伝達をしたいと思う。
防災リテラシーの普及促進し、地区防災計画(避難所運営マニュアル)の策定上のヒントになった。優先席を導入し、普及させます。
今後も、防災教育支援等を通じて、自治体、学校、教育員会等との連携を向上させていきたい。
通学合宿の中で、防災キャンプを取り組めたらと考えた。

Q6 内容に対する御意見・御感想がありましたら、御自由にお書きください。(一部抜粋)

防災についての研究をしています。「学校が避難所になったら」を想定して、いつでもすぐに動ける体制づくりにがんばっていきたい。
身近な滋賀県の情報で、とてもよかったです。最新のデータ等で説明していただき、大変勉強になりました。 細かい配慮まで教えていただき、ありがたかったです。細かい配慮等を今日学び、防災教育の必要性を改めて感じました。
「防災キャンプの実践」について、市町教育委員会職員や自治会役員に対して研修会を開催してほしい。
避難不足問題や、災害時に市が実際どのような体制を取って対処するのも教えて頂きたかった。
事例発表、講演の後、少人数(4~5人)でディスカッションや情報交換できるとよいと思われます。 その記録を活用されていくとどうでしょうか。